

佐藤哲夫名誉教授 研究業績目録

1. 著書（単著書）

- 1993 年 『国際組織の創造的展開——設立文書の解釈理論に関する一考察——』
（勁草書房、xiv + 502 頁、1993 年）（法学博士の学位請求論文）
- 1996 年 *Evolving Constitutions of International Organizations: A Critical Analysis of the Interpretative Framework of the Constituent Instruments of International Organizations* (The Hague, Kluwer Law International, International Law in Japanese Perspective, Volume 3, 1996. Pp. xviii + 301)（上記書物の翻訳）
- 2005 年 『国際組織法』（有斐閣、xxiv + 393 頁、2005 年）
- 2015 年 『国連安全保障理事会と憲章第 7 章 集団安全保障制度の創造的展開とその課題』（有斐閣、xvi + 396 頁、2015 年）

2. 論文（単著論文）

- 1981 年 「国際組織と黙示的権限の法理（Ⅰ）——解釈プロセスをめぐって——」『一橋研究』第 6 巻第 3 号、1981 年、38-53 頁
- 1986 年 「国際組織設立文書の解釈プロセス——法創造的解釈をめぐって——（1）」一橋大学研究年報『法学研究』第 16 号、1986 年、45-186 頁〔→『国際組織の創造的展開』に所収〕
- “Constituent Instruments of International Organizations and Their Interpretative Framework — Introduction to the Principal Doctrines and Bibliography,” *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Volume 14, 1986, pp. 1-22
- 1987 年 「国際組織の存在意義——『国際組織』概念の理解と機能の態様を中心として——」『ジュリスト』No. 875、1987. 1. 1-15、219-25 頁

- 1988年 “Status of Constituent Instruments of International Organizations in the Law of Treaties — With Particular Reference to the Notion ‘relevant rules of the organization,’” *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Volume 16, 1988, pp. 25-47
- 1989年 「国際組織設立文書の解釈プロセス — 法創造的解釈をめぐって — (2)」一橋大学研究年報『法学研究』第19号、1989年、3-180頁〔→『国際組織の創造的展開』に所収〕
- 1990年 「国際組織設立文書の解釈プロセス — 法創造的解釈をめぐって — (3・完)」一橋大学研究年報『法学研究』第21号、1990年、1-266頁〔→『国際組織の創造的展開』に所収〕(※ 同論文(1、2、3)は、第24回安達峰一郎記念賞(平成3年度)を受賞した)
「国際組織設立文書の解釈プロセスと国際組織のダイナミズム」『一橋論叢』第104巻第1号、1990年、17-40頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第7章』に所収〕
- 1993年 “An Emerging Doctrine of the Interpretative Framework of Constituent Instruments as the Constitutions of International Organizations,” *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Volume 21, 1993, pp. 1-63〔→*Evolving Constitutions of International Organizations*に所収〕
「国際社会の共通利益と国際機構 — 国際共同体の代表機関としての国際連合について」(大谷良雄編著『共通利益概念と国際法』国際書院、1993年) 69-111頁
- 1994年 「冷戦後の国際連合憲章第七章に基づく安全保障理事会の活動 — 武力の行使に関わる二つの事例をめぐって — 」一橋大学研究年報『法学研究』第26号、1994年、53-167頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第7章』に所収〕
- 1995年 「国際組織による国々の義務に対する国際的コントロール — 国際人権法から国際環境法へ — 」『一橋論叢』第114巻第1号、1995年、99-115頁
- 1997年 「国際環境法とは何か」『一橋論叢』第117巻第1号、1997年、189-97

頁

「国際法とスポーツ——スポーツ選手の人権問題」一橋大学スポーツ科学研究室『研究年報 1997 スポーツとグローバリゼーション』1997 年、20-35 頁

「冷戦解消後における国連平和維持活動」(杉原高嶺編『紛争解決の国際法』三省堂、1997 年) 323-53 頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第 7 章』に所収〕

2000 年 「国際連合憲章第七章に基づく安全保障理事会の活動の正当性」一橋大学研究年報『法学研究』第 34 号、2000 年、175-242 頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第 7 章』に所収〕

2001 年 「国際社会の組織化の理論的検討——国際社会の組織化と国際法秩序の変容——」(国際法学会編『日本と国際法の 100 年 第 8 巻 国際組織と国際協力』三省堂、2001 年) 1-27 頁

「国際社会における“Constitution”の概念——国際連合憲章は国際社会の憲法か?——」(一橋大学法学部創立 50 周年記念論文集刊行会『変動期における法と国際関係』有斐閣、2001 年) 501-522 頁

“The Legitimacy of Security Council Activities under Chapter VII of the UN Charter since the End of the Cold War”, in *The Legitimacy of International Organizations* (UNU Press, Jean-Marc Coicaud and Veijo Heiskanen eds., 2001) pp. 309-352

2002 年 「国連安全保障理事会機能の創造的展開——湾岸戦争から 9・11 テロまでを中心として」『国際法外交雑誌』第 101 巻第 3 号、2002 年、21-45 頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第 7 章』に所収〕

2005 年 「国際紛争と公権力：国連安全保障理事会」(山内進他編『暴力：比較文明的考察』東京大学出版会、2005 年) 235-264、308-310、314-317 頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第 7 章』に所収〕

「人道援助活動の中立性と国連の軍事的活動——UNHCR と ICRC のアプローチの比較の視点から——」(島田征夫編著『国内避難民と国際法』信山社、2005 年) 121-174 頁

- 2006年 「国際法から見た『正しい戦争』とは何か——戦争規制の効力と限界——」(山内進編『『正しい戦争』という思想』勁草書房、2006年) 233-261頁
- 2007年 「国際組織およびその決定の正当性——21世紀における国際組織の課題——」『思想』2007.1、No.993、184-202頁
「第1章 国連安全保障理事会決議による経済制裁の概略と課題」(財団法人平和・安全保障研究所『国連安保理決議による経済制裁』(平成18年度外務省委嘱調査)、2007年)5-20頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第7章』に所収〕
- 2008年 “The U.N. Security Council and the Rule of Law in International Society: With Particular Reference to Chapter VII Activities”, *Soochow Law Journal*, Volume V, Number 1, 2008, pp. 1-40
- 2009年 “Legitimacy of International Organizations and their Decisions — Challenges that International Organizations Face in the 21st Century”, *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Volume 37, 2009, pp. 11-30
「国連安全保障理事会の創造的展開とその正当性——憲章第7章の機能の多様な展開と立憲化 (constitutionalization) の視点をめぐって——」日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』(『国連研究』第10号、国際書院、2009年)77-103頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第7章』に所収〕
- 2011年 「見果てぬ夢、国連常設軍——国際公共目的に向けた軍事的強制の現代的諸相——」『世界法年報』第30号、2011年、1-51頁〔→『国連安全保障理事会と憲章第7章』に所収〕
- 2012年 「Transitional Justice, Peacebuilding, and International Law: What Role is Played by the UN in Post-conflict Peacebuilding?」『国際法外交雑誌』第110巻第4号、2012年、26-58頁
- 2015年 「捕鯨事件にみる国際組織の創造的展開——『加盟国の誠実協力義務』の立証責任転換機能に注目して——」柳井俊二・村瀬信也編『国際法の実践 小松一郎大使追悼』(信山社、2015年)149-180頁

- 「国連による安全保障の70年と日本の対応」『法律時報』87巻12号
(2015年11月) 21-26頁
- 2016年 「国際連合の70年と国際法秩序：国際社会と国際連合における法の支配の発展」日本国際連合学会編『国連：戦後70年の歩み、課題、展望』（『国連研究』第17号、国際書院、2016年）45-76頁
- 2017年 「国連安全保障理事会は「国際立法」権限を篡奪したのか？——国際テロリズムと大量破壊兵器の不拡散をめぐる」『法律時報』89巻10号
(2017年9月) 21-26頁
- 2018年 「講演 国際公益と国連安全保障理事会」『法政論叢（山形大学）』68・69合併号（2018年2月）109-148頁

3. 書評

- 1984年 「Denys Simon, “L’interprétation judiciaire des traités d’organisations internationales — Morphologie des conventions et fonction juridictionnelle”; avant-propos de Pierre Pescatore, préface de Jean Charpentier, (Publications de la Revue générale de droit international public, nouvelle série-n° 37, Paris: Editions A. Pedone, 1981. xv + 936pp.)」『国際法外交雑誌』第83巻第5号、1984年、610-15頁
- 1986年 “*Kokusaiho Kenkyu* (Studies in International Law). By Takeshi Minagawa. Tokyo: Yuhikaku Publishing Co., Ltd., 1985. Pp. 331, iii,” *The Japanese Annual of International Law*, Volume 29, 1986, pp. 289-95
- 1987年 “Review of Professor Takeshi Minagawa’s *Kokusaiho Kenkyu* with Some General Observations on his Contribution to the Science of International Law,” *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Volume 15, 1987, pp. 13-27
- 「最上敏樹著『ユネスコの危機と世界秩序——非暴力革命としての国際機構——』1987年212頁」『国際問題』No. 327、1987年、71-73頁

- 1994年 「松井芳郎著『湾岸戦争と国際連合』（日本評論社、1993年250頁）」
『国際法外交雑誌』第92巻第6号、1994年、767-73頁
- 1996年 「United Nations Legal Order (2 vols.). Edited by Oscar Schachter and Christopher G. Joyner. Co-published with the American Society of International Law. Cambridge University Press, 1995. Pp. xxiv, 1119, Index.」『国際法外交雑誌』第94巻第5・6合併号、1996年、809-15頁
- 1997年 “*Kokusai-shakai no Soshikika to Ho* (The Organization of International Society and the Law): edited by Masaharu Yanagihara. Tokyo: Shinzansha, 1996. Pp. xii, 453, with *Curriculum Vitae* and List of Publications of Professor Hisaji Uchida.” *The Japanese Annual of International Law*, Volume 40, 1997, pp. 105-107
- 2001年 “*Kokusai Kontororu no Riron to Jikko* (International Supervision in Theory and Practice), by Akio Morita. Tokyo: University of Tokyo Press, 2000, Pp. xiii, 201, Indices.” *The Japanese Annual of International Law*, Volume 44, 2001, pp. 160-163
- 2002年 「森田章夫著『国際コントロールの理論と実行』」『国際法外交雑誌』第100巻第6号、2002年、104-107頁
- 2004年 “*21-seiki no Kokusai Kiko: Kadai to Tenbō* (International Organizations in the 21st Century — Problems and Prospects: Essays in Honor of Professor Shigeru Kozai on His Seventieth Birthday). Edited by Nisuke Ando, Osamu Nakamura and Ryuichi Ida. Tokyo: Toshindo, 2004. Pp. xvii, 578.” *The Japanese Annual of International Law*, Volume 47, 2004, pp. 168-171
- 2005年 「安藤仁介・中村道・位田隆一編『21世紀の国際機構：課題と展望』（東信堂、2004年、578頁）」（日本国際連合学会編『市民社会と国連』（『国連研究』第6号、国際書院、2005年）249-256頁
- 2007年 「黒神直純著『国際公務員法の研究』」『国際法外交雑誌』第106巻第1号、2007年、101-108頁
- 2009年 「中村道著『国際機構法の研究』」『国際法外交雑誌』第108巻第2号、

2009 年、120-125 頁

“Commentary: General Analysis of accountability in the UN context”,
in *Envisioning reform: Enhancing UN accountability in the twenty-first century* (UNU Press, Sumihiro Kuyama and Michael Ross Fowler
eds., 2009), pp. 343-348

4. 判例解説

1997 年 「国際法 1 難民の出国と難民認定」『ジュリスト平成 8 年度重要判例解説』1113 号、1997. 6. 10、261-263 頁

2001 年 「平和維持活動の法的性質と展開 —— 国連経費事件」(山本草二他編『国際法判例百選(別冊ジュリスト 156 号)』有斐閣、2001 年) 208-9 頁
「国際法 2 戦後補償における在日韓国人元軍属の法的地位と国際人権規約」『ジュリスト平成 12 年度重要判例解説』1202 号、2001. 6. 10、284-285 頁

2011 年 「国際組織の法人格 —— 国連損害賠償事件」(小寺彰他編『国際法判例百選 [第 2 版] (別冊ジュリスト 204 号)』有斐閣、2011 年) 80-81 頁

5. 学会報告等

1989 年 国際法学会 1989 年度春季大会 (1989 年 5 月 14 日、明治大学): 「国際組織設立文書の解釈プロセス —— 国際組織のダイナミズムに関する問題提起 ——」の題にて研究報告、研究報告・質疑討論の要旨は、『国際法外交雑誌』第 88 巻第 3 号、1989 年、366-68 頁に掲載

1997 年 「平和維持活動と強制活動に対する国際人道法の適用可能性」の題にて研究報告 (『報告書: 国際人道法専門家会議、国際人道法とわが国の課題』日本赤十字社、1997 年) 65-71、111-113 頁

2001 年 国際法学会 2001 年度秋季大会 (2001 年 10 月 13 日、同志社大学): 「国連安全保障理事会機能の創造的展開 —— 冷戦後における憲章第七章

の深化と進化——」の題にて研究報告、研究報告・質疑討論の要旨は、『国際法外交雑誌』第100巻第6号、2002年、906-7頁に掲載

2007年 国際シンポジウム（2007 International Conference on the Development of International Law held by the School of Law, Soochow University, Friday 28 December 2007）にて、「The U.N. Security Council and the Rule of Law in International Society — with particular reference to Chapter VII activities —」の題にて研究報告

2008年 日本国際連合学会研究大会（2008年6月1日、広島修道大学）にて「国連安全保障理事会の創造的展開とその正当性——憲章第七章の機能の多様な展開をめぐって——」の題にて研究報告

2010年 世界法学会研究大会（2010年5月9日、大阪大学）にて「見果てぬ夢、国連常設軍——国際公共目的に向けた軍事的強制の現代的諸相——」の題にて研究報告

2011年 国際法学会 2011年度秋季大会（2011年10月8日、関西学院大学）：「Transitional Justice and International Law: What Role is Played by the UN in Post-conflict Peacebuilding?」の題にて英語での研究報告、研究報告・質疑討論の要旨は、『国際法外交雑誌』第110巻第3号、2011年、184-185頁に掲載

2017年 山形大学人文社会科学部講演会：「国際公益と国連安全保障理事会」の題にて講演、講演録は、『法政論叢（山形大学）』68・69合併号（2018年2月）109-148頁に掲載

6. その他

(1) 教科書分担執筆

1999年 「第6章 国際組織の設立、創造的展開および解散」、「第7章 国際組織における加盟国の地位」（横田洋三編『国際組織法』有斐閣、1999年）57-69、70-82頁

2011年 「第13章 国際組織」、「第15章 安全保障」（森川俊孝・佐藤文夫編

著『新国際法講義』北樹出版、2011年）197-216、233-252頁

(2) 対談

2007年 対談（大沼保昭東京大学教授と）：「国際法の生きた姿をどう認識するか」（連続対談、21世紀の国際社会と法——国際法の生きた姿を考える——第2回）『法学セミナー』2007年11月号（第52巻11号通巻635号）56-61頁

2011年 対談（大沼保昭東京大学教授と）の収録：大沼保昭編『21世紀の国際法——多極化する世界の法と力』（日本評論社、2011年）の「第5章 国際法の生きた姿」（80-96頁）

(3) 辞典の項目執筆

1991年 『現代政治学事典』（株式会社大学教育社編集、1991年）に「国連総会」、「国連安全保障理事会」、「拒否権」、「国連事務総長」等の10項目を執筆

1995年 国際法学会編『国際関係法辞典』（三省堂、1995年）に「国際連合総会」、「国際連合行政裁判所」、「黙示的権能」等7項目を執筆

2005年 国際法学会編『国際関係法辞典 第2版』（三省堂、2005年）に「国連総会」、「国連安全保障理事会」、「強制措置」、「国際機構設立文書」、「黙示的権能」、「多国籍軍」、「緊急特別総会」、「原加盟国」の8項目を執筆

(4) 資料解題

2002年 「資料『国際法先例彙輯（10）同盟』解題（1）」『一橋法学』第1巻第1号、2002年、281-301頁

「資料『国際法先例彙輯（10）同盟』解題（2・完）」『一橋法学』第1巻第2号、2002年、536-552頁

(5) 翻訳

2001年 大沼保昭・藤田久一編集代表『国際条約集 2001年版』（有斐閣、2001年）における翻訳見直しを依頼され、「友好関係原則宣言」の翻訳見直しを行った。

2008年 奥脇直也編集代表『国際条約集 2008年版』（有斐閣、2008年）所収の「安全保障理事会決議 1386」の翻訳を行った。

以上